

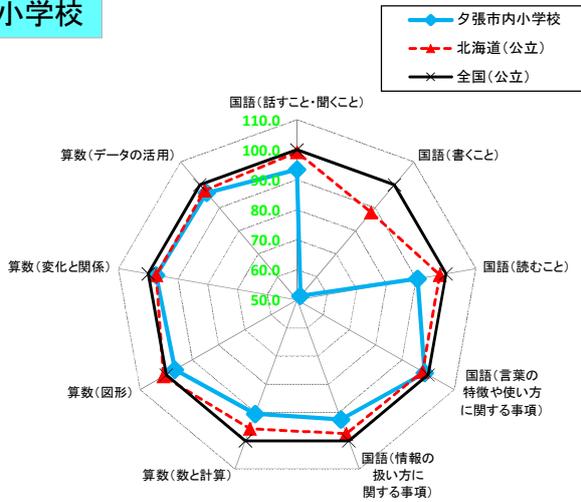
■夕張市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

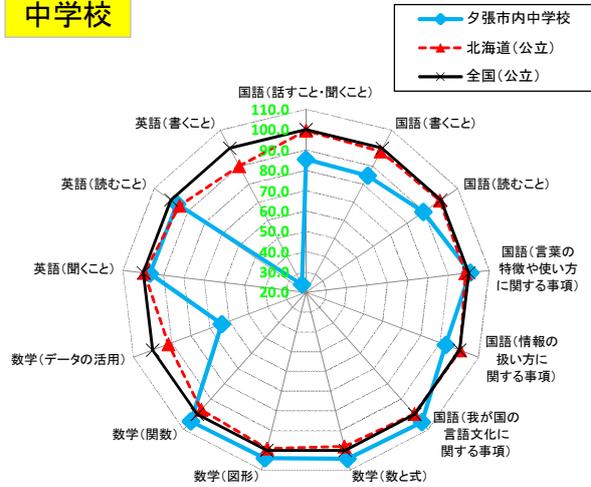
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	65
算数・数学	58	49
英語	-	39

小学校

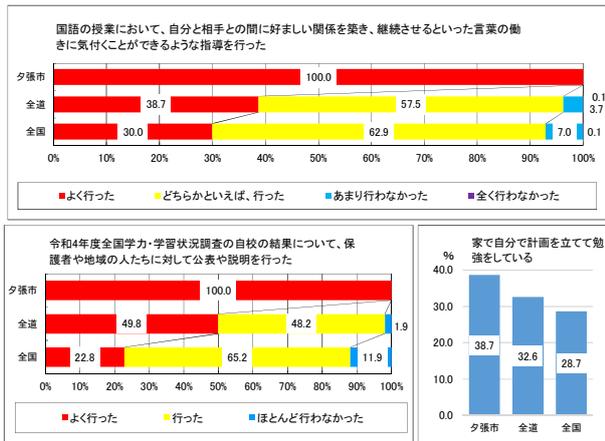


中学校

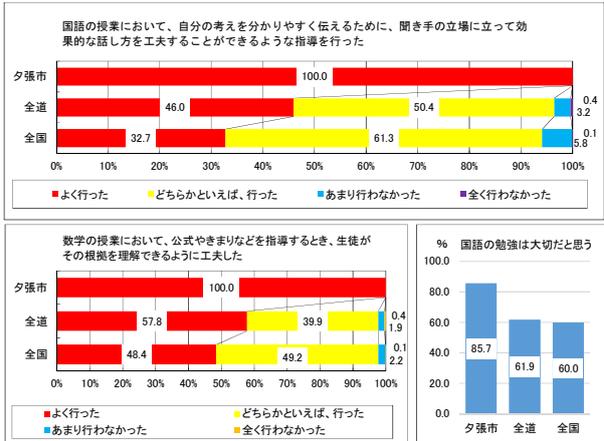


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をよく行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することにより、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の「数と式」「図形」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【夕張市の学力向上策】

- ◎ 「ゆうぱりっこ、学び育成プラン」に基づく取組の充実と検証・改善
- ◎ 夕張市小中連携学力向上プロジェクト委員会による学力分析と改善方策の検討
- ◎ CSとの連携による家庭学習週間(ファミスタウィーク)の実施と学習習慣の改善
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を図るための教員の研修機会の充実

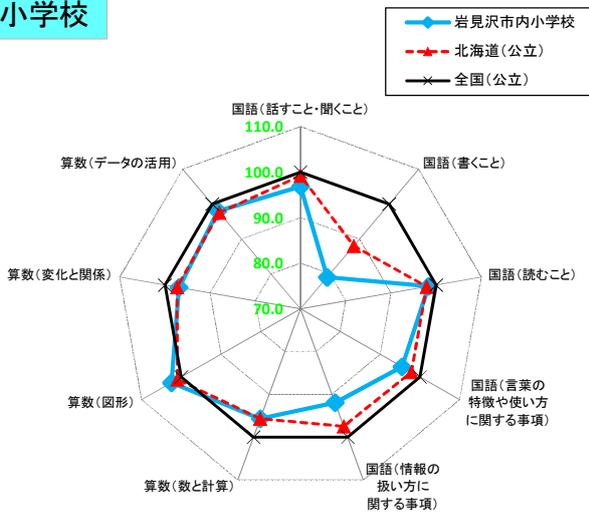
■岩見沢市内の状況及び学力向上策（小学校数:14校、児童数:541人）（中学校数:9校、生徒数:518人）

【教科全体の状況】

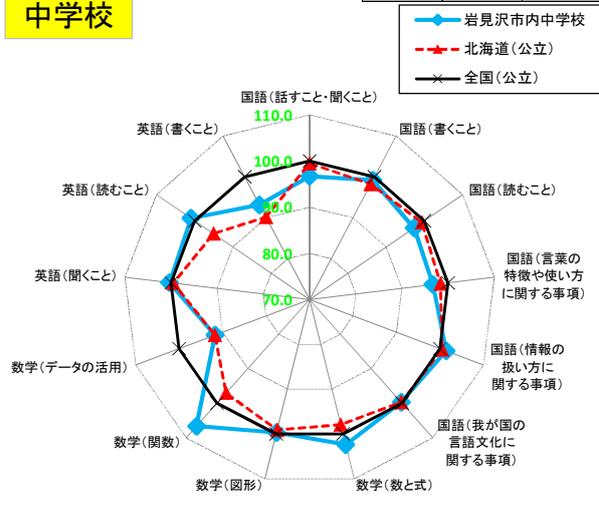
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	69
算数・数学	61	52
英語	-	45

小学校

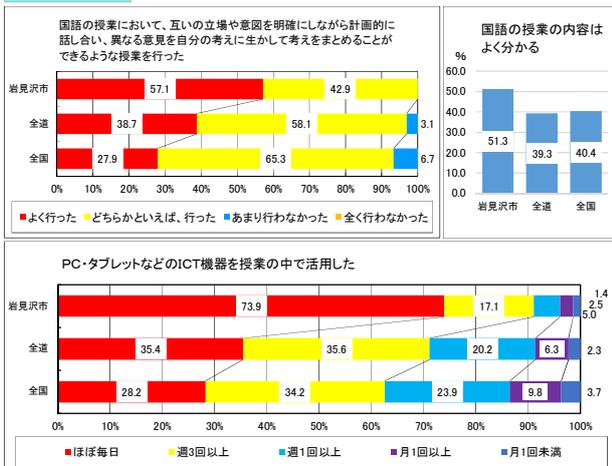


中学校

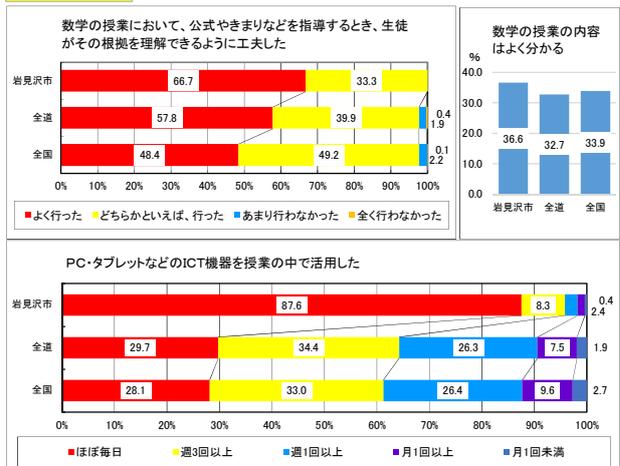


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、1人1台端末の効果的な活用・促進を図る研修会を実施したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を授業の中でほぼ毎日活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「数と式」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、1人1台端末の効果的な活用・促進を図る研修会を実施したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を授業の中でほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩見沢市の学力向上策】

- ◎ 「教えて考えさせる授業」を基盤とした身に付けさせたい資質・能力を明確にした「子どもと創る授業」の展開
- ◎ 学びの連続性を踏まえた、中学校区別の研修会の開催
- ◎ 市立教育研究所の情報教育研究会会員を講師とした、1人1台端末の効果的な活用・促進を図る研修会の実施

【Webページ】



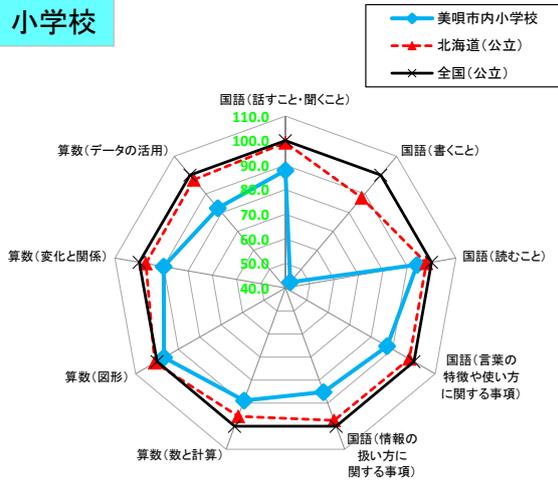
■美唄市内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：87人）（中学校数：2校、生徒数：103人）

【教科全体の状況】

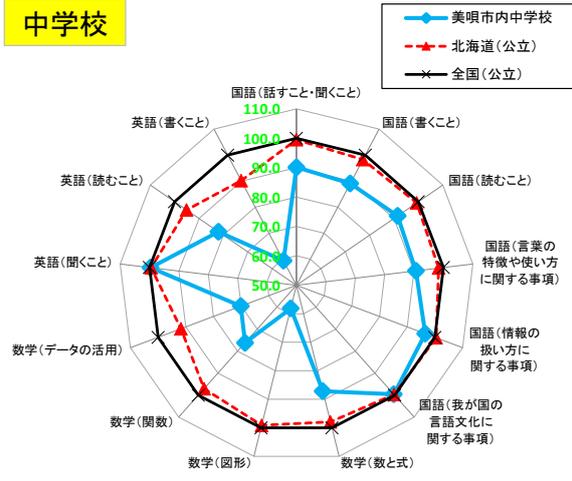
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	65
算数・数学	56	39
英語	-	40

小学校

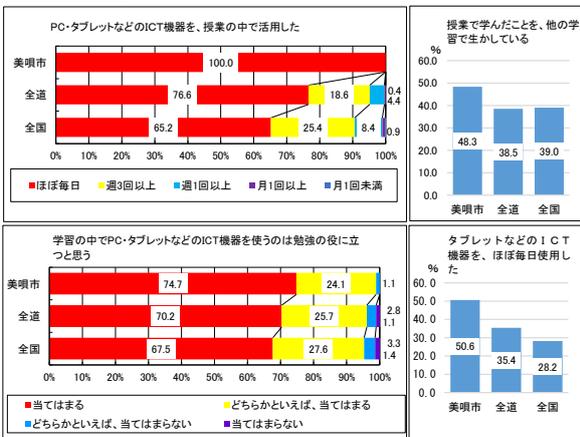


中学校

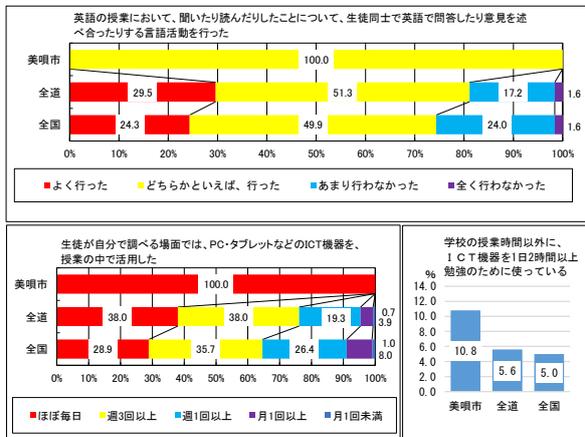


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成と活用したことにより、授業改善が図られ、授業で学んだことを他の学習で生かしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、一人一台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会を実施し、全ての学校で、PC・タブレットなどのICT機器を授業の中でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全ての学校で、英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、生徒が自分で調べる場面において、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用し、ICT機器を日常的に学習に活用したことにより、学校の授業時間以外に、普段、1日当たり2時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【美唄市の学力向上策】

- ◎ 小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成と活用
- ◎ 各中学校区による、学習規律や授業スタイルを整えた学び方の徹底と家庭学習強化週間の設定における家庭と連携した取組の充実
- ◎ 一人一台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施

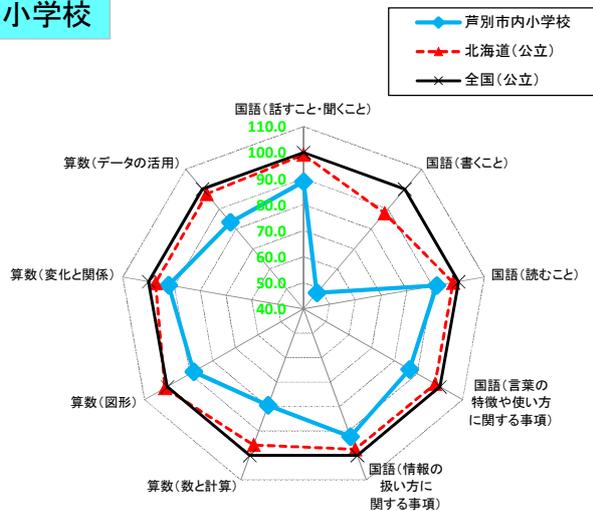
■ 芦別市内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:47人) (中学校数:2校、生徒数:52人)

【教科全体の状況】

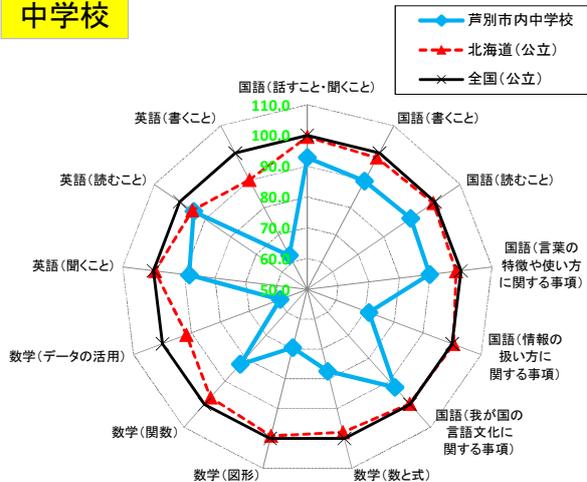
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	62
算数・数学	54	38
英語	-	40

小学校

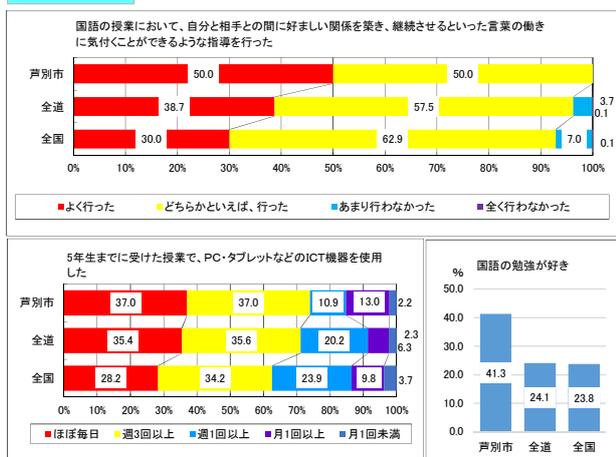


中学校

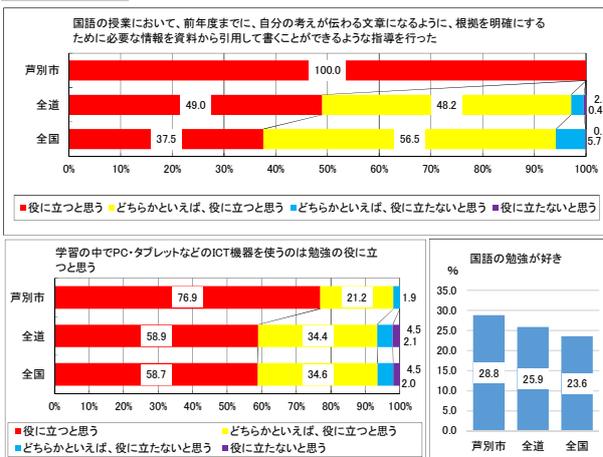


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
市全体で、ICT環境を最大限活用し、個に応じた授業づくりの推進を行ったことにより、授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
全ての学校で、国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
市全体で、ICT環境を最大限活用し、個に応じた授業づくりの推進を行ったことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【芦別市の学力向上策】

- ◎ 道教委指定事業「学校力向上に関する総合実践事業」における包括的な学校改善の推進
- ◎ 小中共通した「芦別スタイル」による授業改善の推進
- ◎ ICT環境を最大限活用した個に応じた授業づくりの推進

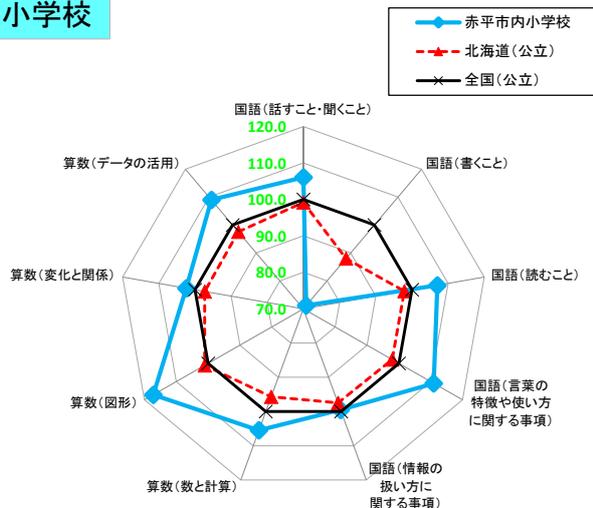
■ 赤平市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:42人）（中学校数:1校、生徒数:38人）

【教科全体の状況】

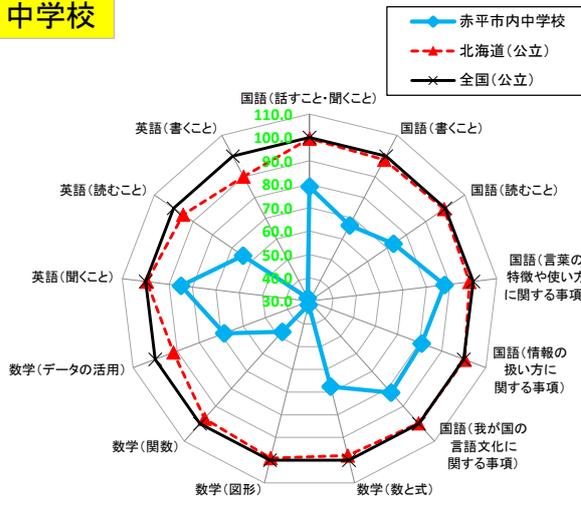
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	55
算数・数学	68	29
英語	-	31

小学校

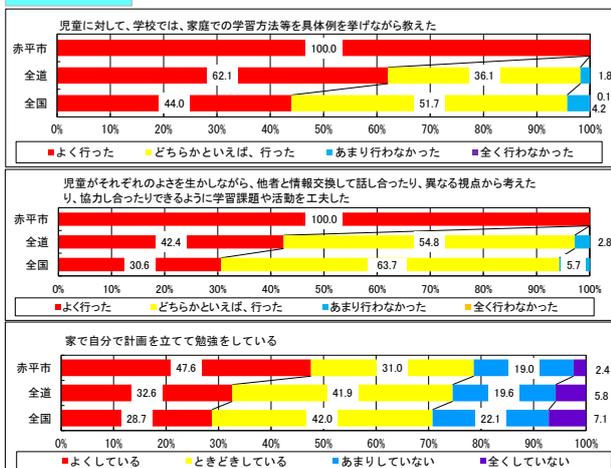


中学校

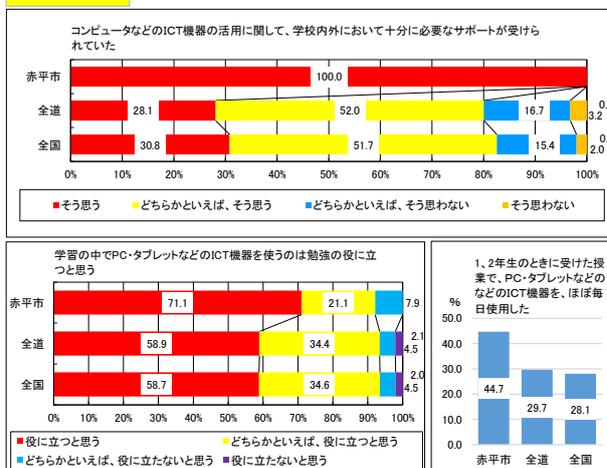


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学校が、コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートを受けたことにより、ICT機器の活用が図られ、1,2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、目指す授業スタイルの共有とICT機器を効果的に活用した授業の実施率向上を図ったことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤平市の学力向上策】

- ◎ 目指す授業スタイルの共有とICT機器を効果的に活用した授業の実施率向上に向けた取組の推進
- ◎ 望ましい家庭学習の例示と家庭学習時間の実態把握による家庭学習の取組の充実
- ◎ AI学習ドリルの導入と英検補助による学習意欲の喚起と公設塾の継続

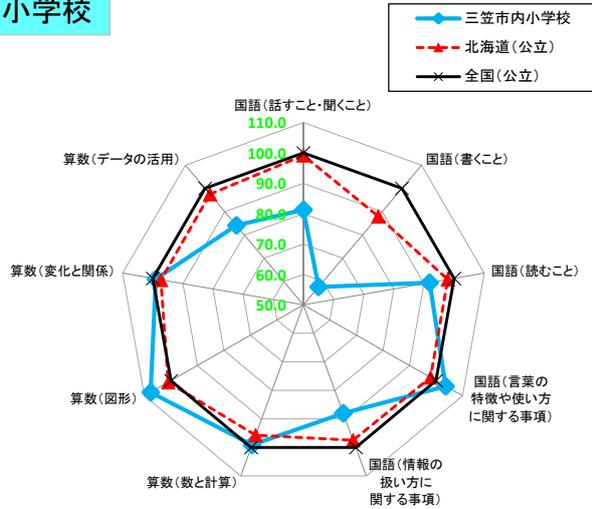
■三笠市内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:26人）（中学校数:2校、生徒数:39人）

【教科全体の状況】

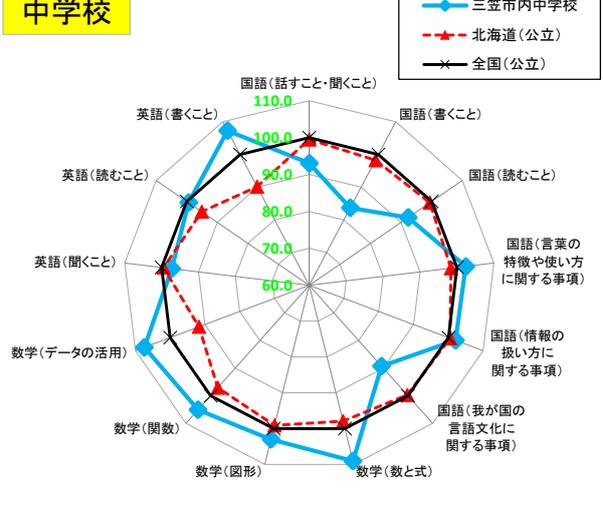
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	66
算数・数学	62	55
英語	-	45

小学校

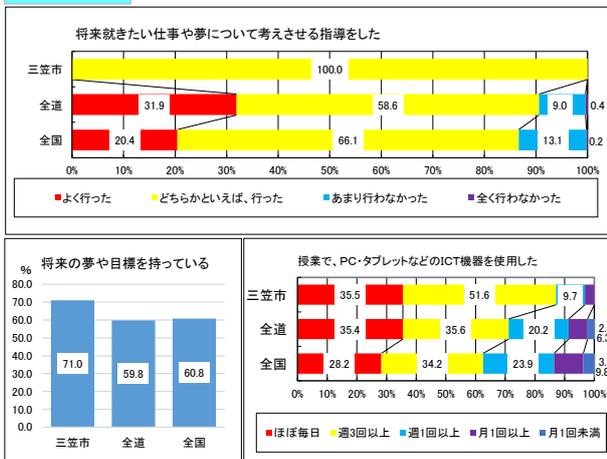


中学校

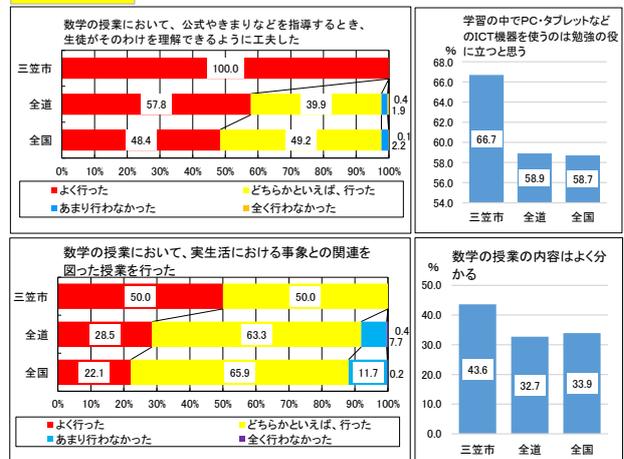


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、小中合同研修会における1人1台端末を活用した授業づくりに係る研修を実施したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

小中合同研修会における1人1台端末を活用した授業づくりに係る研修を実施したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行い、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がそのわけを理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【三笠市の学力向上策】

- ◎ 学力向上を目指し、退職教員や私塾講師を活用した「学力向上未来塾推進事業」の実施
- ◎ 児童生徒の思考力を高める授業づくり「三笠市授業スタイル」に基づく中学校区で共通した目指す子ども像の設定
- ◎ 小中合同研修会における1人1台端末を活用した授業づくりに係る研修の実施

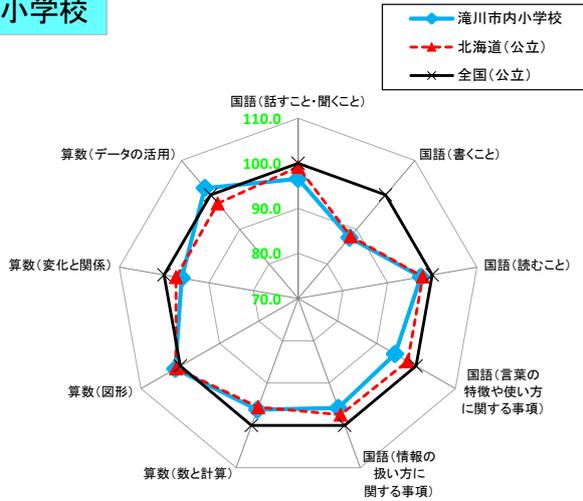
■ 滝川市内の状況及び学力向上策（小学校数：6校、児童数：265人）（中学校数：3校、生徒数：250人）

【教科全体の状況】

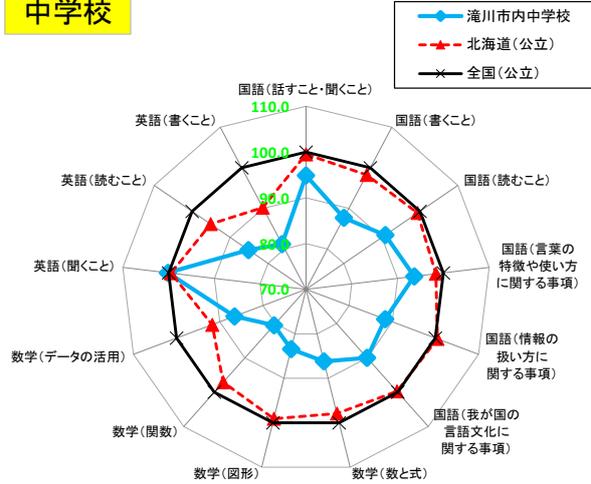
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	64
算数・数学	61	43
英語	-	42

小学校

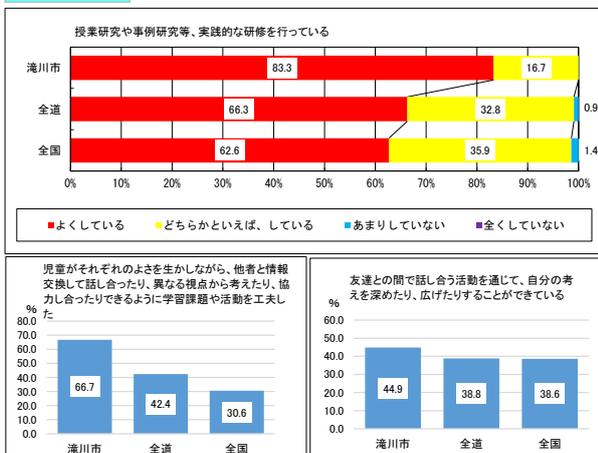


中学校

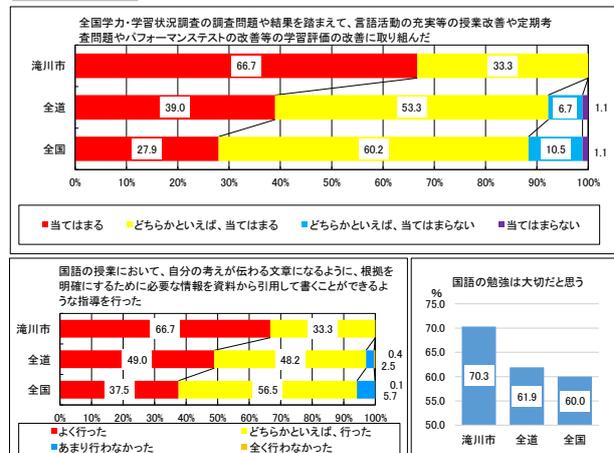


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校において、授業研究や事例研究等の実践的な研修を行ったことにより、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各学校において、全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や定期調査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んだことにより、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことのできるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【滝川市の学力向上策】

- ◎ 「学びサポーター」の戦略的配置による少人数指導体制の積極的な推進
- ◎ 家庭学習の手引による保護者と連携した家庭における予習や復習の習慣化に向けた取組の推進
- ◎ 道教委指定事業「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」を活用した学校間の取組の発信による積極的な授業改善の推進

【Webページ】



(後日掲載予定)

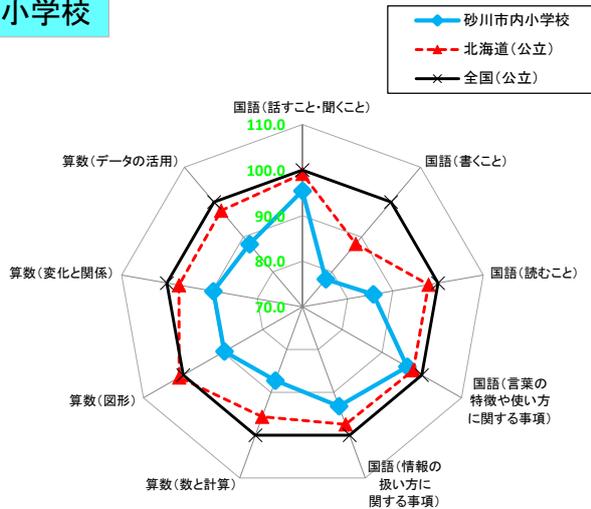
■ 砂川市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:77人）（中学校数:1校、生徒数:106人）

【教科全体の状況】

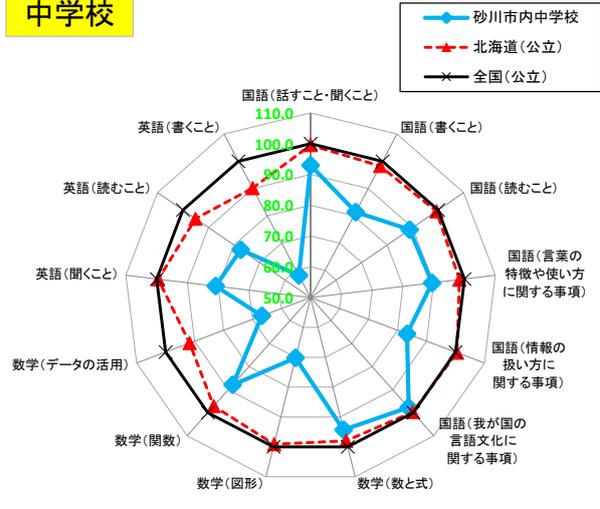
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	63
算数・数学	55	43
英語	-	35

小学校

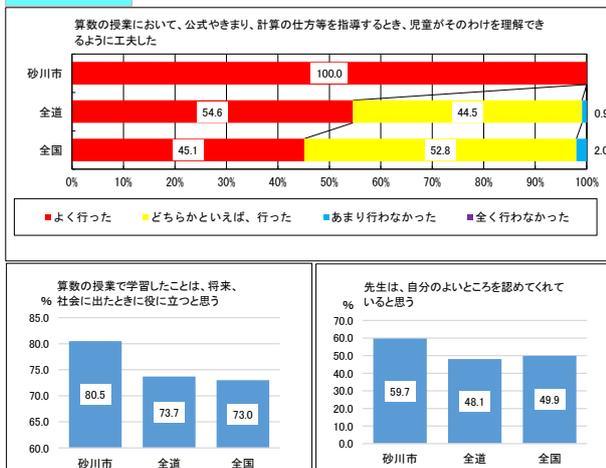


中学校

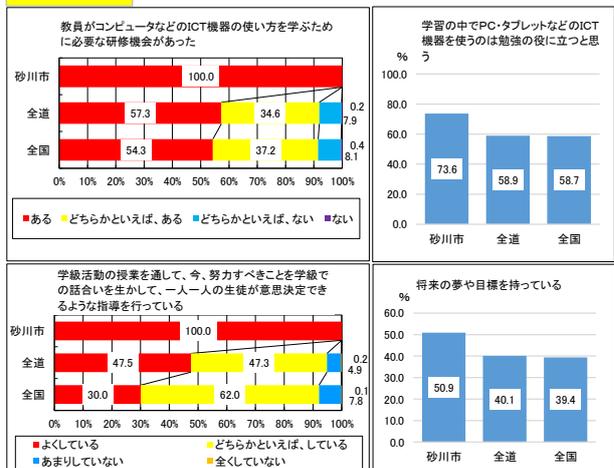


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で「ほめること」を大切にしたい自己肯定感を高める指導の推進を行ったことにより、先生は、自分のよいところを認めてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を実施したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【砂川市の学力向上策】

- ◎ 小学校5校が共通して取り組む授業改善や「ほめること」を大切にしたい自己肯定感を高める指導の推進
- ◎ 小中連携して設定した家庭学習強化週間による、基礎・基本の確実な定着を図る家庭学習の充実
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

【Webページ】



(後日掲載予定)

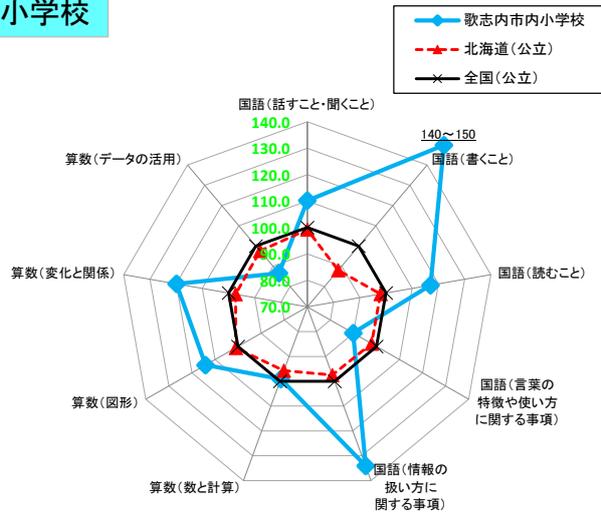
■歌志内市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

【教科全体の状況】

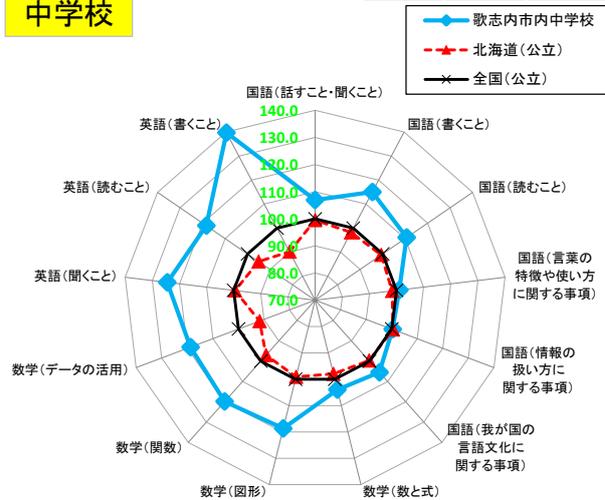
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	75
算数・数学	68	58
英語	-	57

小学校

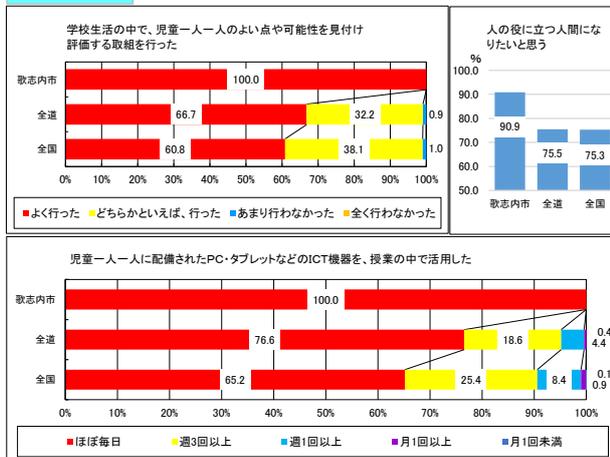


中学校

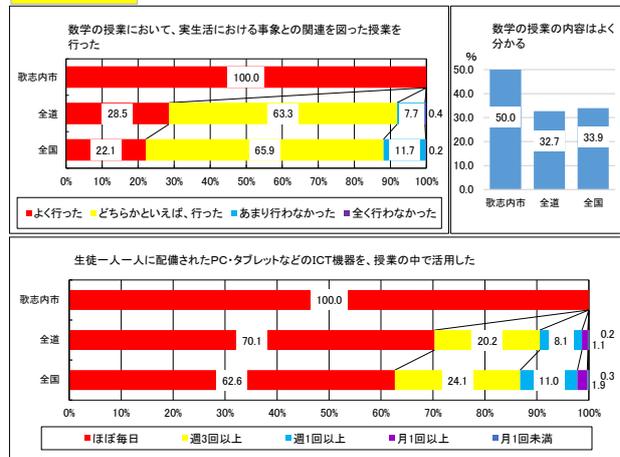


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、ICT支援員による一人一台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制を充実したことにより、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日授業で活用した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、ICT支援員による一人一台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制を充実したことにより、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日授業で活用した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【歌志内市の学力向上策】

- ◎ 義務教育学校としての9年間の学びを充実させるための教育課程の編成と指導計画の作成
- ◎ 教科担任制による基礎学力向上の取組
- ◎ ICT支援員による1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

【Webページ】



(後日掲載予定)

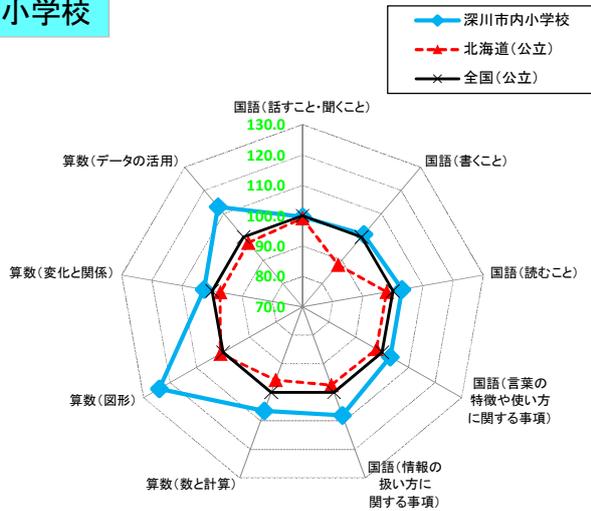
■深川市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:100人）（中学校数:2校、生徒数:107人）

【教科全体の状況】

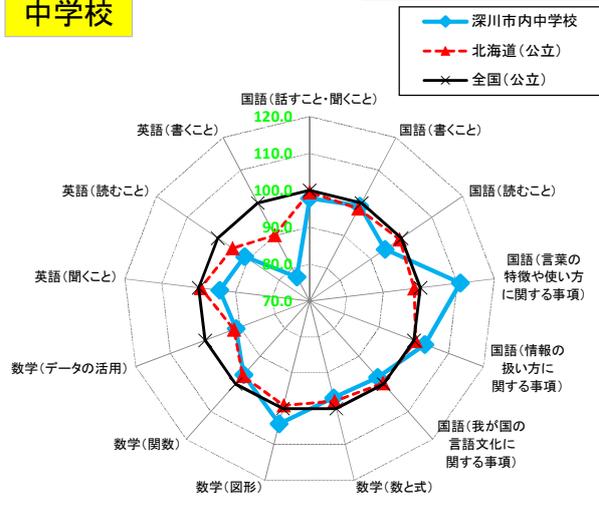
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	69
算数・数学	69	49
英語	-	41

小学校

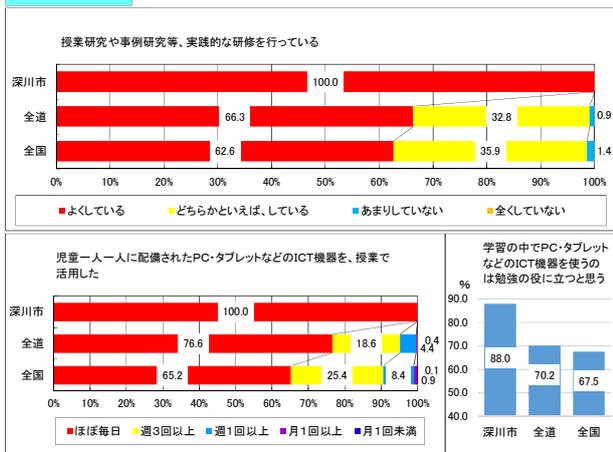


中学校

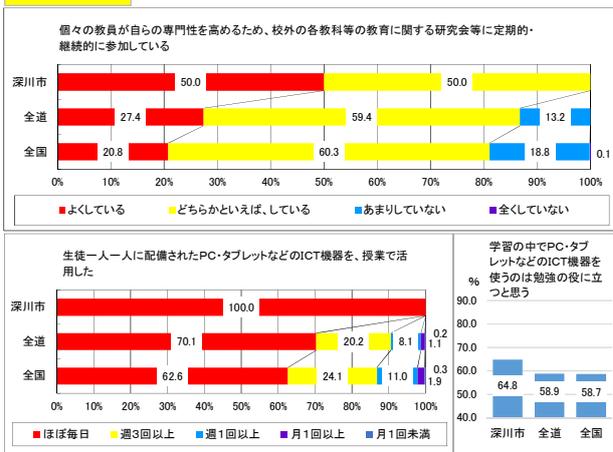


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修を実施したことにより、授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行っていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、ICTを効果的に活用した授業改善を推進するとともに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市全体で、学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修を実施したことにより、個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、ICTを効果的に活用した授業改善を推進するとともに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【深川市の学力向上策】

- ◎ 小・中学生を対象にした放課後や長期休業中の学習支援を行う「学習サポートプログラム」の実施
- ◎ 学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修の実施
- ◎ ICTを効果的に活用した授業改善の推進

【Webページ】



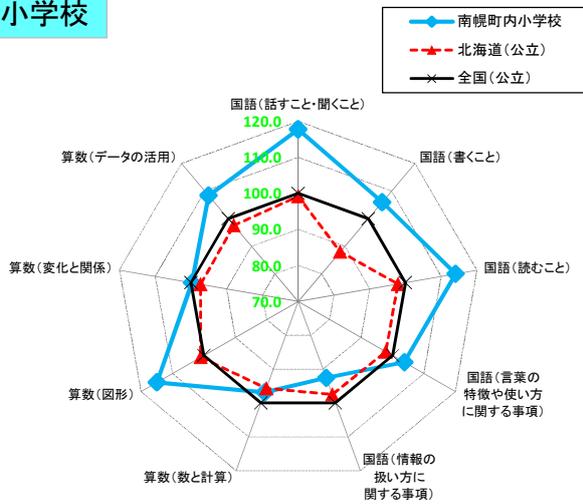
■南幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:46人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

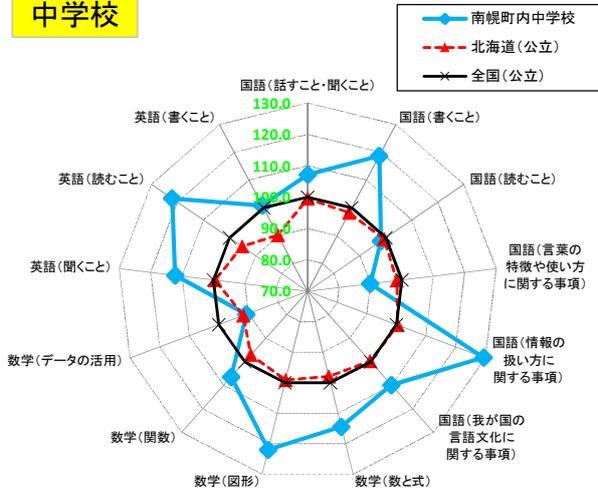
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	75
算数・数学	65	55
英語	-	52

小学校

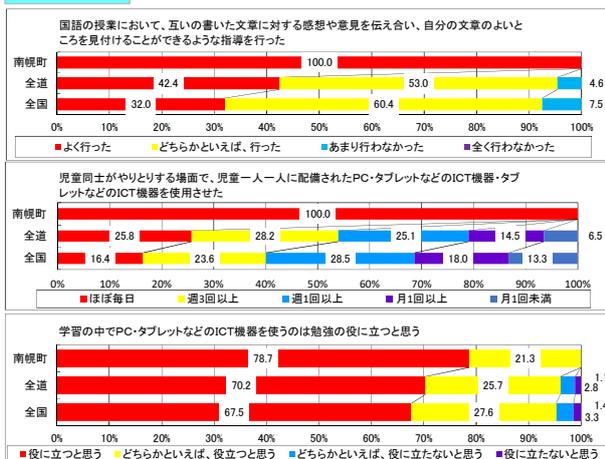


中学校

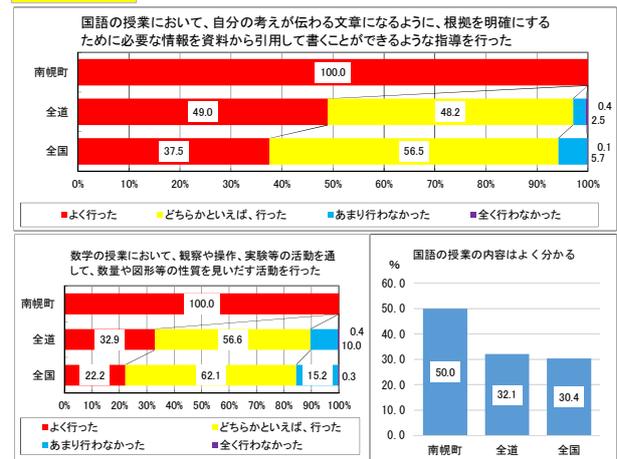


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやり取りする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレット端末などのICT機器を使用したことにより、学習の中でPC・タブレット端末などのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の「書くこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ 児童生徒の一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習指導員の配置
- ◎ きめ細やかな指導に向けた少人数学級のための町独自による教員加配

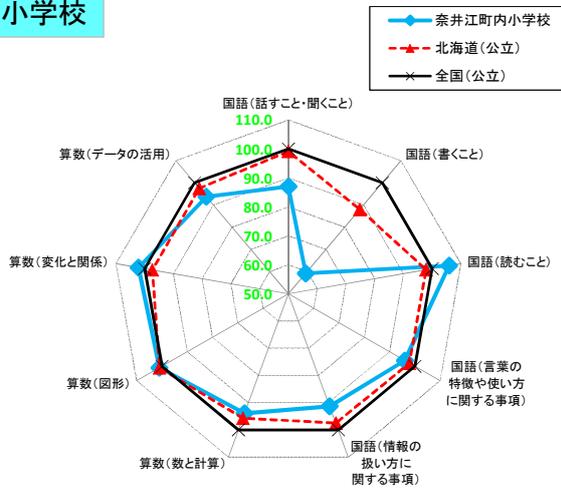
■奈井江町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

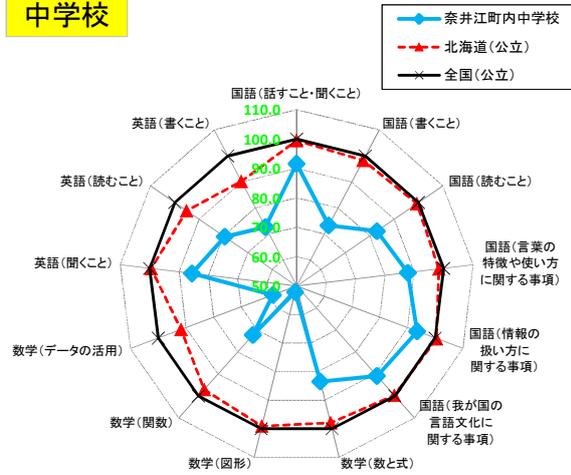
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	61
算数・数学	62	37
英語	-	37

小学校

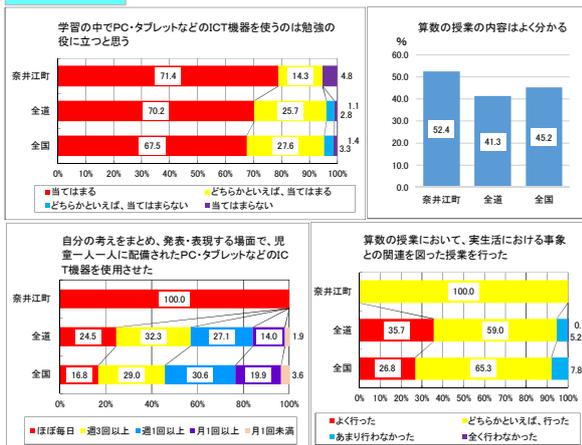


中学校

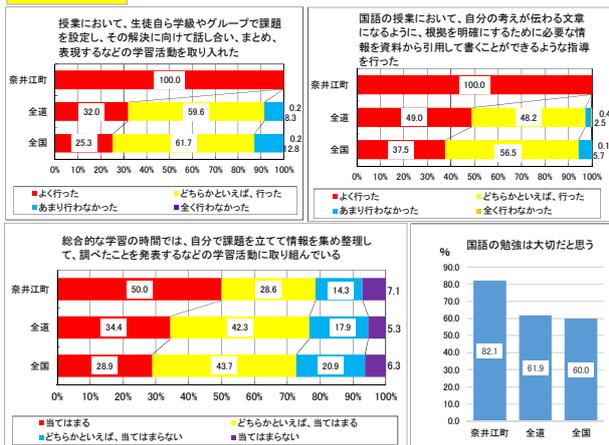


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うとともに、児童の習熟度に関する情報共有を教員間で密に行ったり、机間指導の充実を図ったりしたことにより、算数の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配慮されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現などの学習活動をよく行ったことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奈井江町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校で統一した学習規律の徹底・習熟度に応じた指導の充実(机間指導、T・T等との情報共有)
- ◎ 公設塾との連携により、家庭学習習慣の確立及び自主学習サポートを行うとともに、学ぶことの楽しさを感じられる特別活動の実施
- ◎ タブレット端末を活用した授業改善・AI型教材活用による「個別最適な学び」の推進
- ◎ 町図書館司書と学校図書担当教諭による読書活動の支援

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

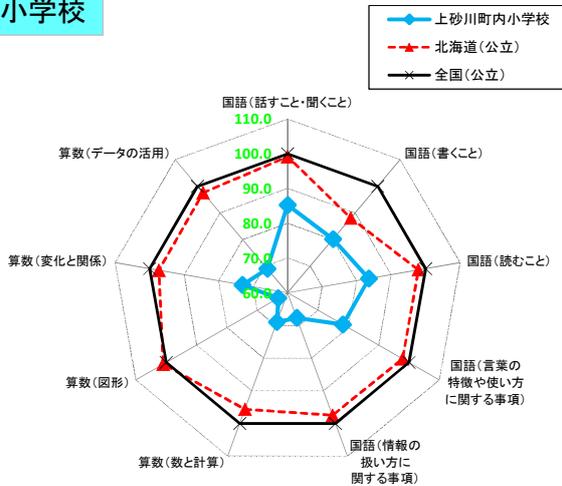
■上砂川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:14人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

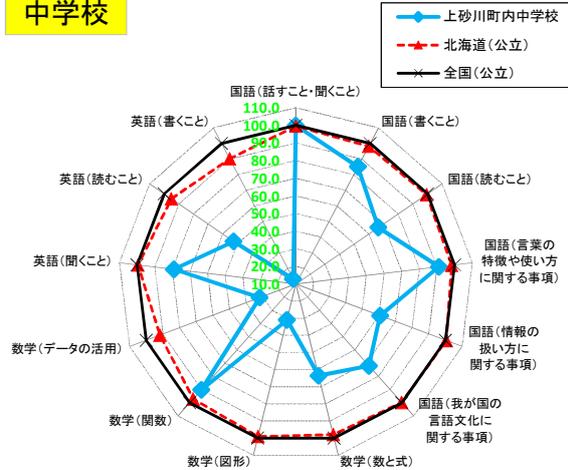
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	54	57
算数・数学	43	31
英語	-	27

小学校

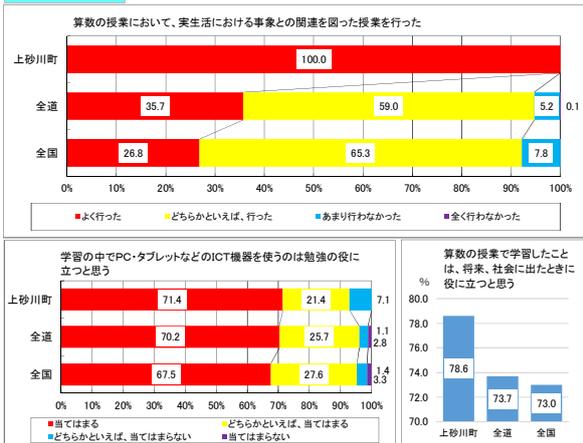


中学校

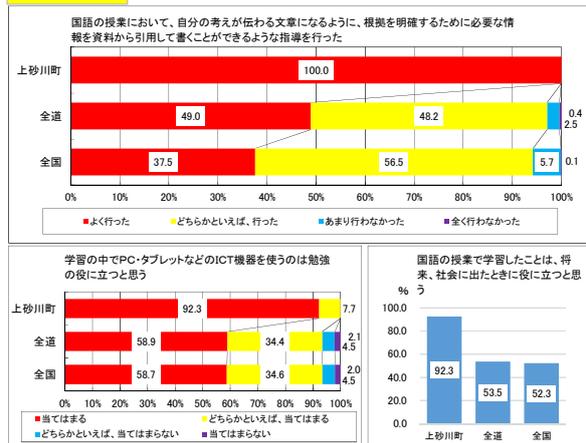


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレットの教材ソフトを導入し、分かりやすい授業づくりを促進したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレットの教材ソフトを導入し、分かりやすい授業づくりを促進したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上砂川町の学力向上策】

- ◎ タブレットの教材ソフト導入による分かりやすい授業づくりの促進
- ◎ 将来、職業への目標意識をもたせるための「学び応援事業」の実施
- ◎ 公設塾の継続と実施方法の見直し
- ◎ 小学4～6年生の塾講師による夏休みゼミの実施
- ◎ 中学生への各種検定料の助成

【Webページ】



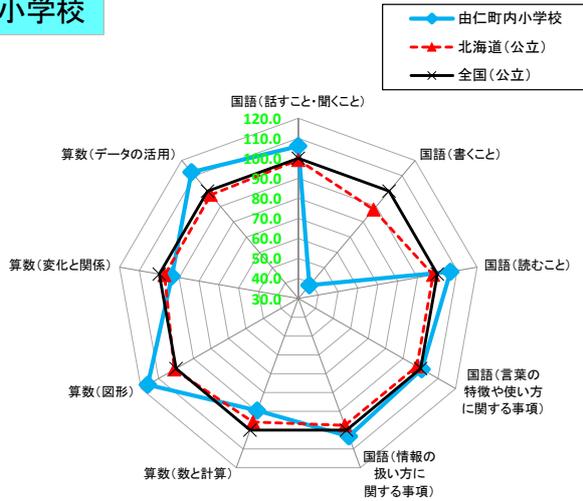
■由仁町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

【教科全体の状況】

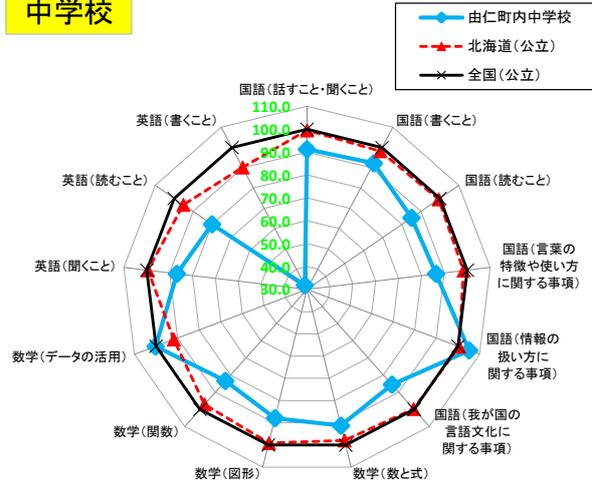
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したのもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	64
算数・数学	62	46
英語	-	35

小学校

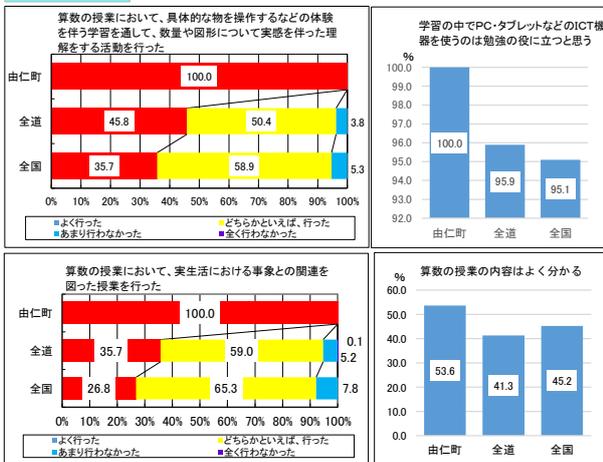


中学校

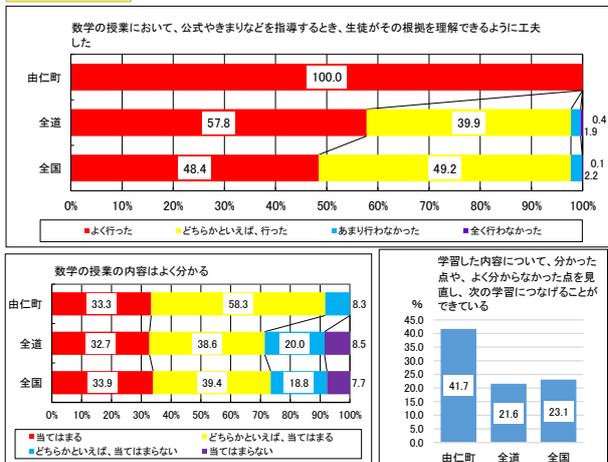


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことや具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「図形」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で児童生徒1人1台端末を活用した持ち帰り学習を推進したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

町全体で放課後学習及び長期休業期間中における児童生徒へ個別指導を実施したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【由仁町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進に向けた9年間の統一的教育課程の編成
- ◎ 放課後学習及び長期休業期間中における児童生徒への個別指導の実施
- ◎ 児童生徒1人1台端末を活用した持ち帰り学習（デジタルドリル等）

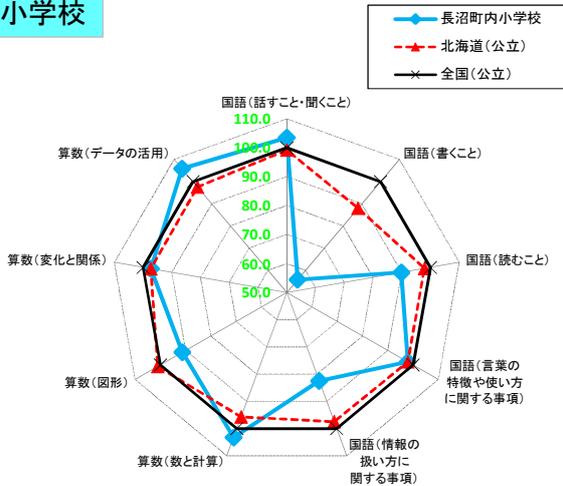
■長沼町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：87人）（中学校数：1校、生徒数：71人）

【教科全体の状況】

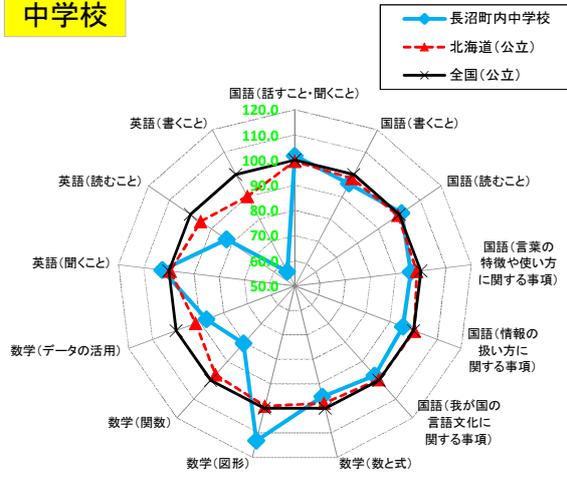
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	69
算数・数学	62	47
英語	-	40

小学校

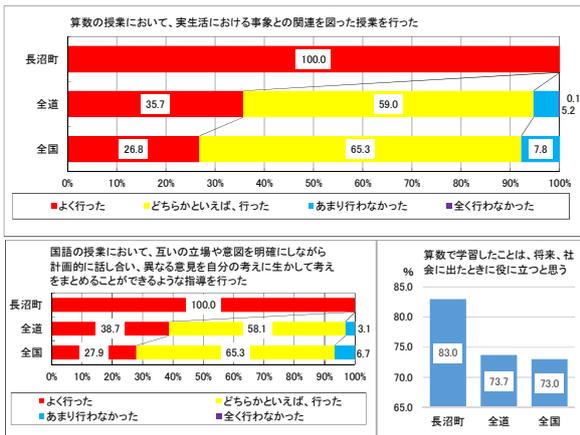


中学校

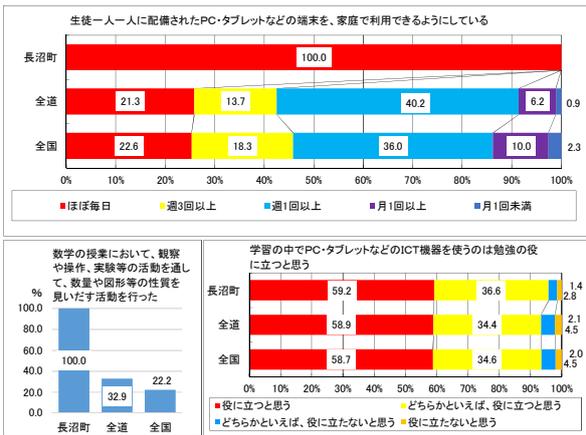


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが... 国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、算数で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭でほぼ毎日利用できるようなにしたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育推進会議による9年間の見通しをもった教育活動全体のカリキュラムの充実や効果的な利活用の検討など、小・中学校が協働した授業改善の推進
- ◎ 教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
- ◎ AI教材などの学習アプリを用いたICT活用の充実(授業及び端末持ち帰りによる家庭学習での効果的な利活用の推進)
- ◎ 学習支援員やALTの配置及び検定料の助成などによる子どもたちの学びを支える教育の推進

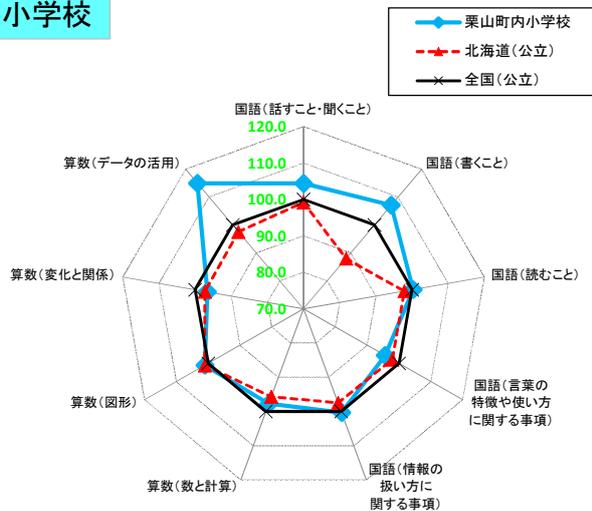
■栗山町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:77人）（中学校数:1校、生徒数:60人）

【教科全体の状況】

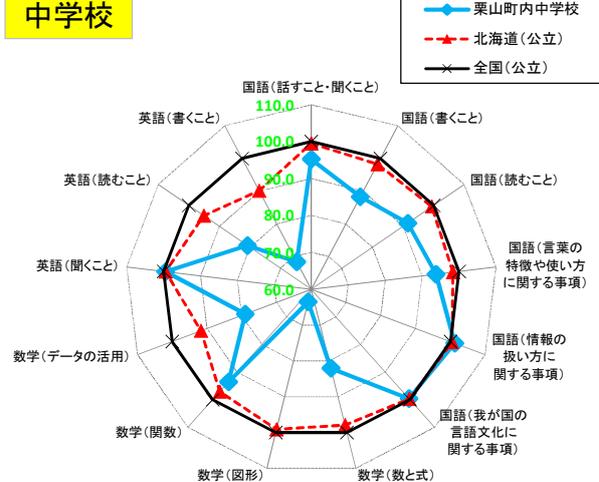
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	66
算数・数学	63	42
英語	-	40

小学校

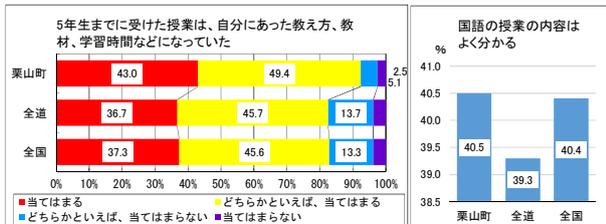
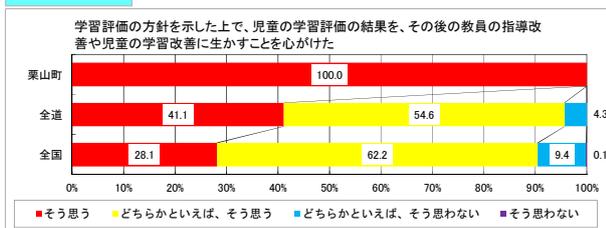


中学校

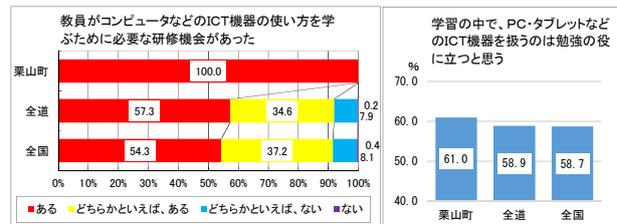
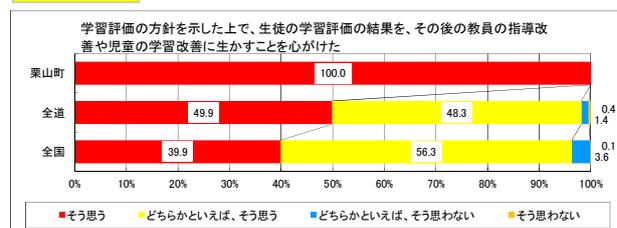


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての学校で、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことをよく心がけたことにより、国語の授業はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに国語の2領域1事項及び算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校や教育振興会で教職員が授業力の向上を目的に学び合う環境の整備を行ったことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことをよく心がけたことにより、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を実施したことにより、学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を扱うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【栗山町の学力向上策】

- ◎ 授業力の向上を目的とした、学校や教育振興会で教職員が学び合う環境の整備
- ◎ 保護者や地域住民と連携したコミュニティ・スクール制度の推進
- ◎ ICT活用委員会による研修の充実

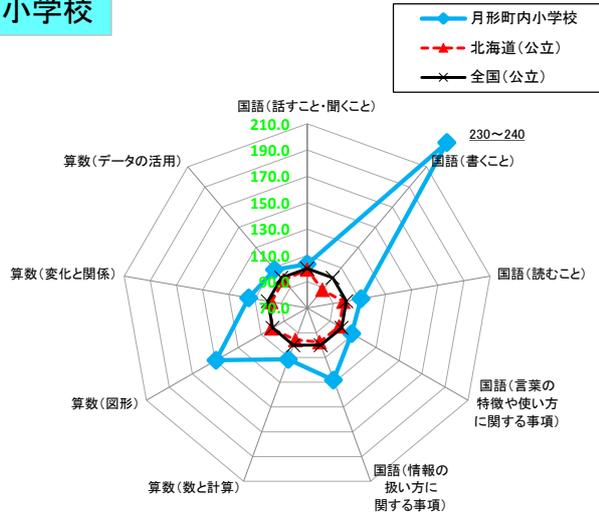
■ 月形町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:8人) (中学校数:1校、生徒数:13人)

【教科全体の状況】

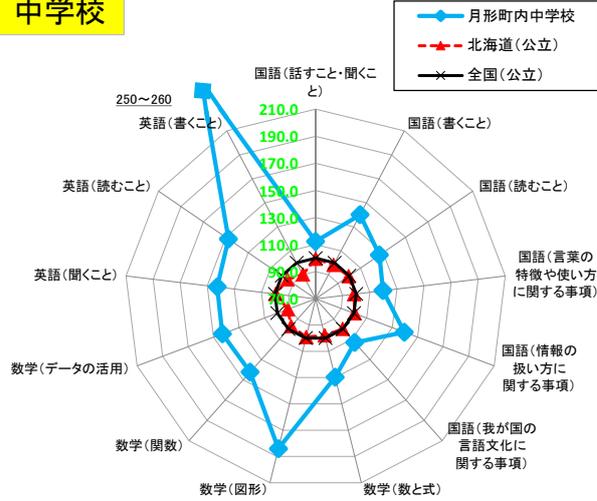
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	86
算数・数学	75	73
英語	-	73

小学校

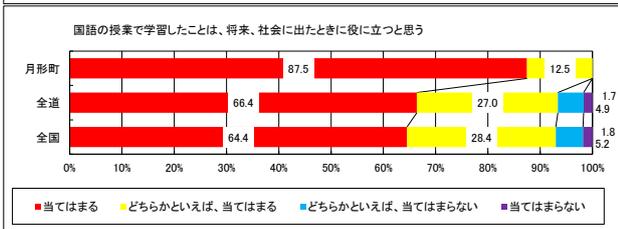
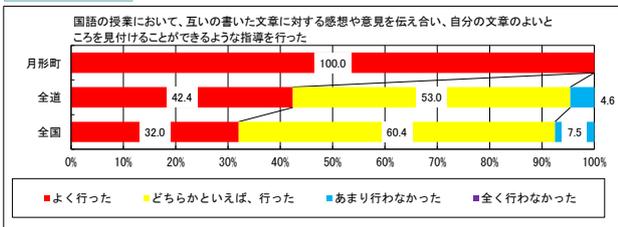


中学校

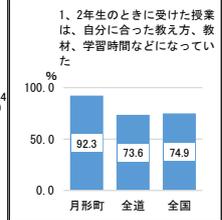
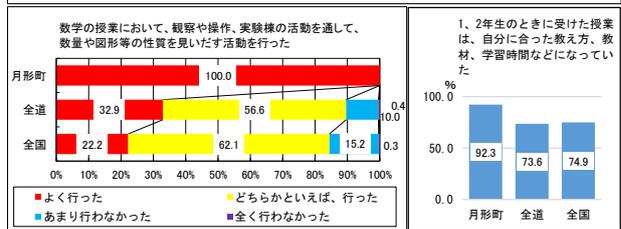
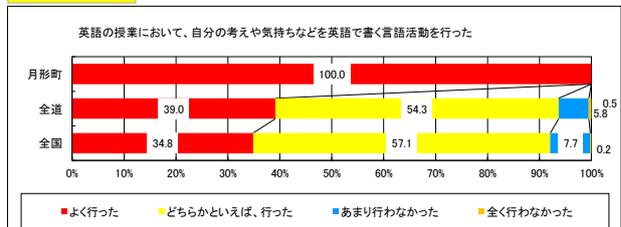


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習熟の程度に応じた指導や主体的・協働的な学習を取り入れた指導を推進したことにより、国語及び算数における全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導をよく行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図等の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動をよく行ったことにより、英語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【月形町の学力向上策】

- ◎ 習熟の程度に応じた指導や主体的・協働的な学習を取り入れた指導の推進
- ◎ 小・中学校に時間講師を配置し、主体的な学びの実現を図る授業改善の推進

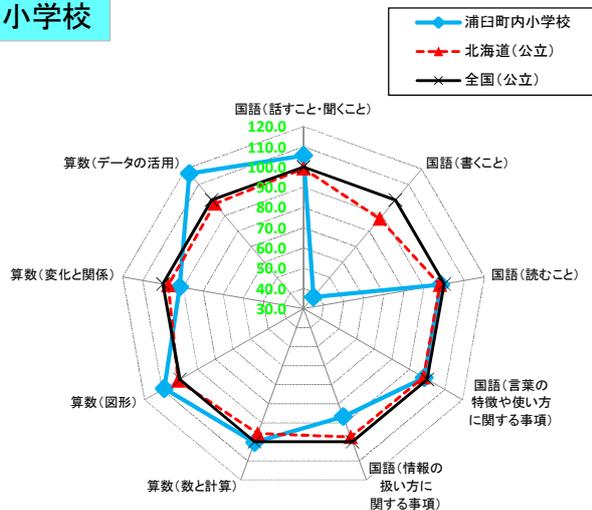
■浦臼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

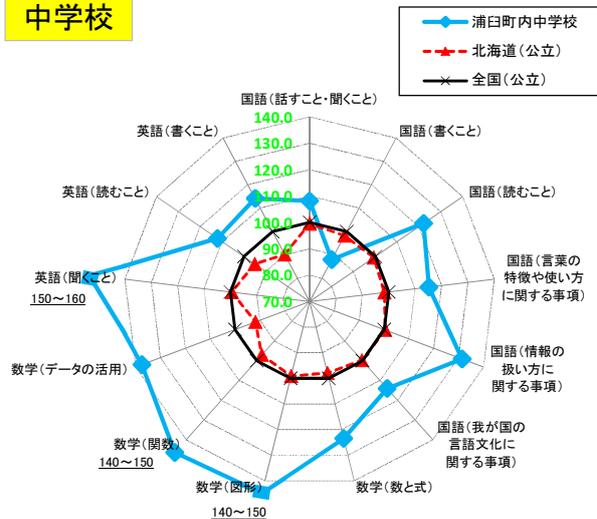
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	80
算数・数学	64	69
英語	-	59

小学校

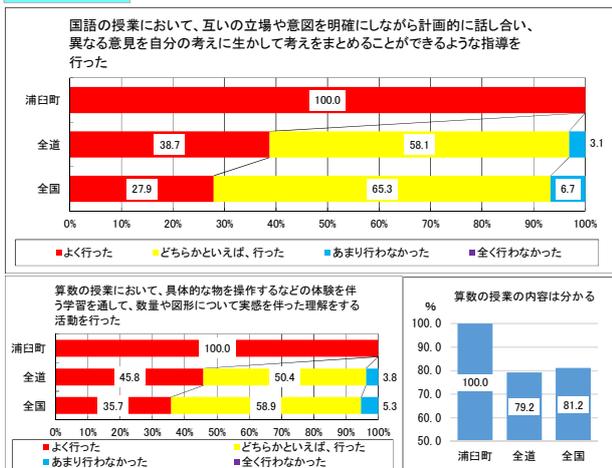


中学校

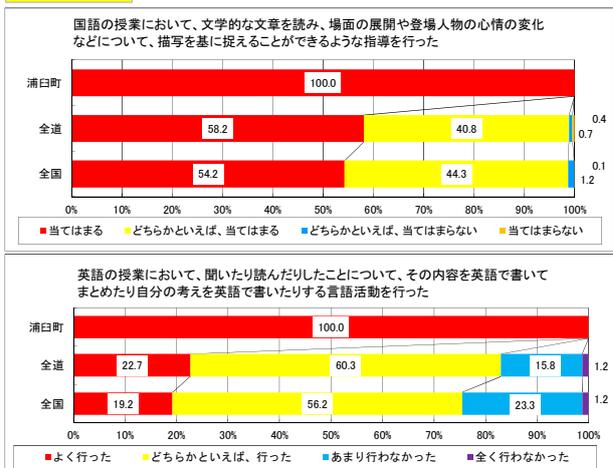


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導をよく行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動をよく行ったことにより、算数の授業の内容は分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導をよく行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動をよく行ったことにより、英語の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦臼町の学力向上策】

- ◎ 小中連携による統一した授業スタイル、学習規律、指導方法の確立
- ◎ コミュニティ・スクール導入による家庭と地域、学校が連携した学校づくりの促進
- ◎ ICT機器の効果的な活用による授業改善の促進

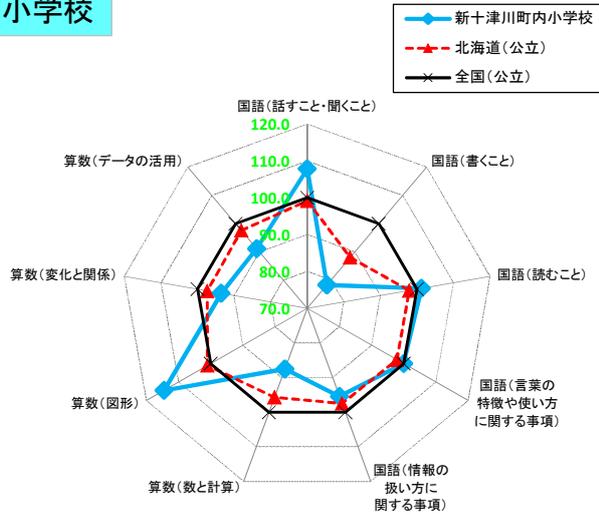
■新十津川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:43人）（中学校数:1校、生徒数:47人）

【教科全体の状況】

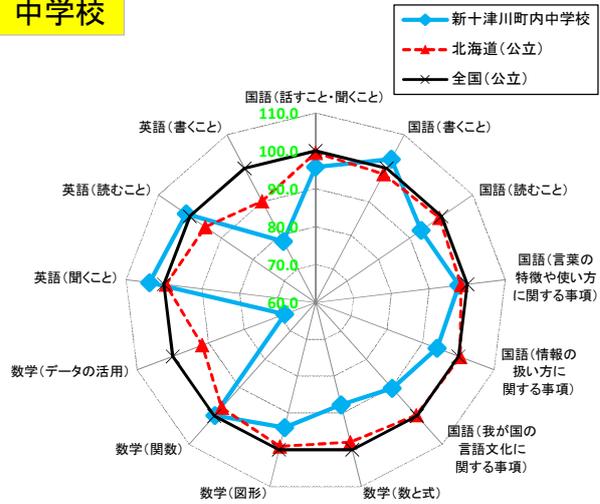
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	67
算数・数学	60	45
英語	-	45

小学校

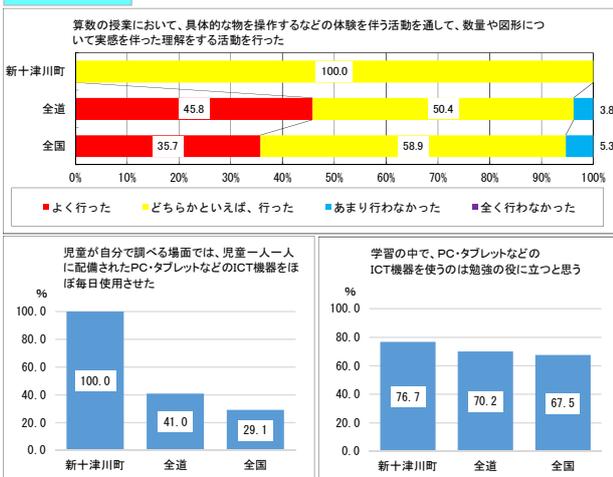


中学校

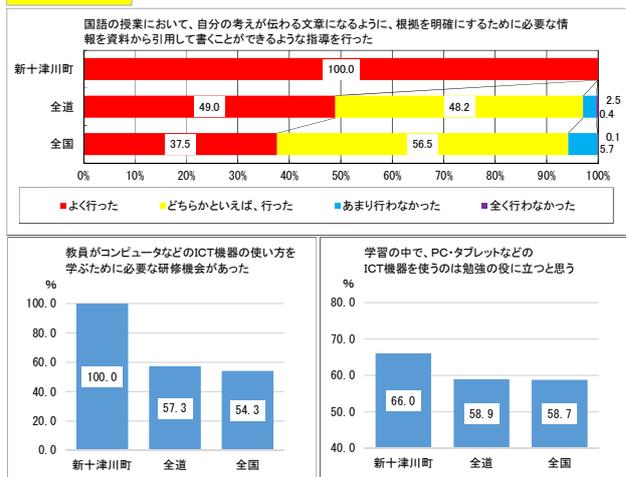


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う活動を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が自分で調べる場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を実施したことにより、学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

- ◎ 「学習支援サポーター」や「学力向上推進講師」を活用した「ティーム・ティーチング指導」の実施
- ◎ ALTを活用した授業改善や中学校英語教師の乗り入れ授業の実施
- ◎ 放課後学習サポートの実施

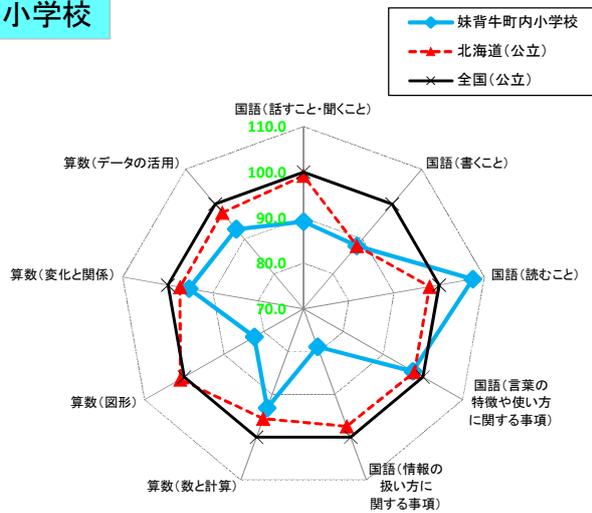
■妹背牛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

【教科全体の状況】

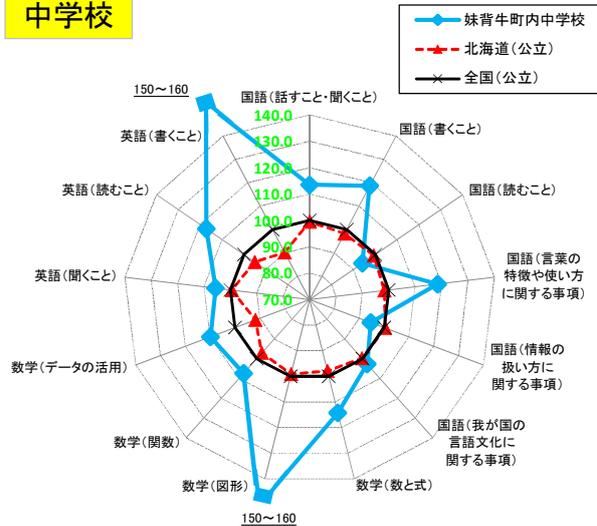
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	75
算数・数学	57	59
英語	-	54

小学校

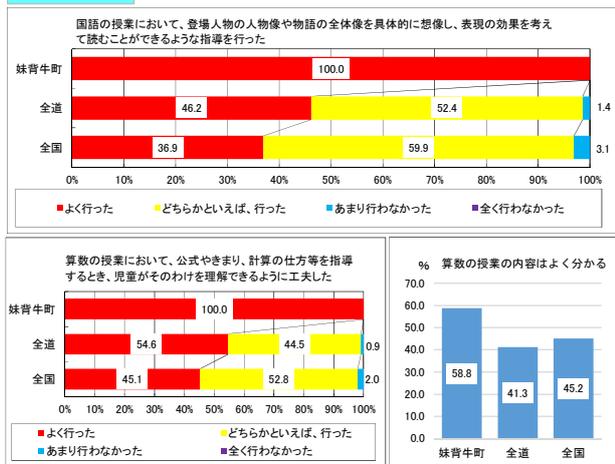


中学校

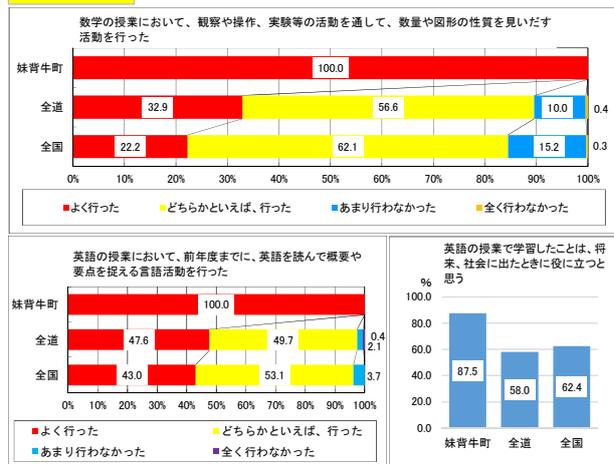


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができる指導をよく行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業がよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで概要や要点を捉える言語活動をよく行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着に向けたチーム・ティーチングや習熟度別学習での児童生徒への指導の充実
- ◎ 国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりの推進

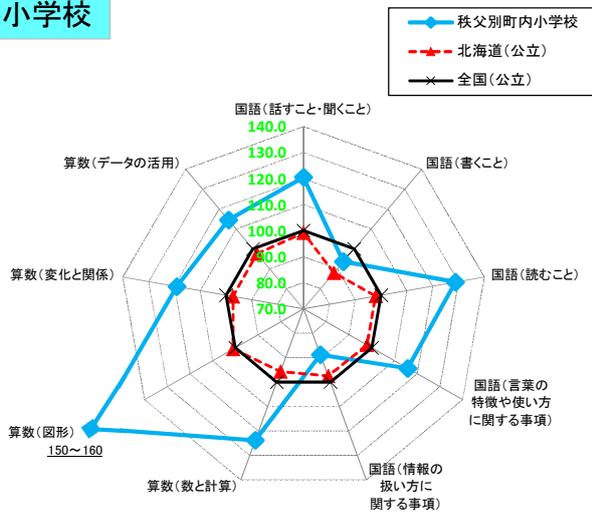
■ 秩父別町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:8人) (中学校数:1校、生徒数:20人)

【教科全体の状況】

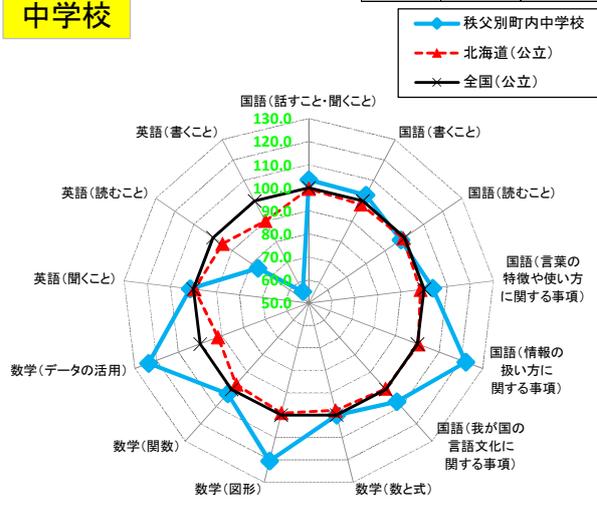
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	78	73
算数・数学	80	55
英語	-	39

小学校

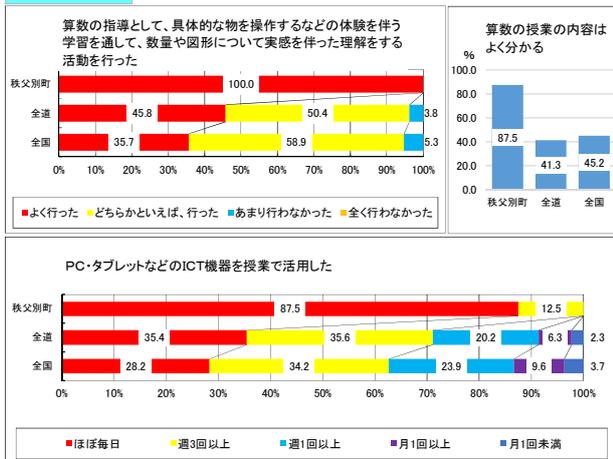


中学校

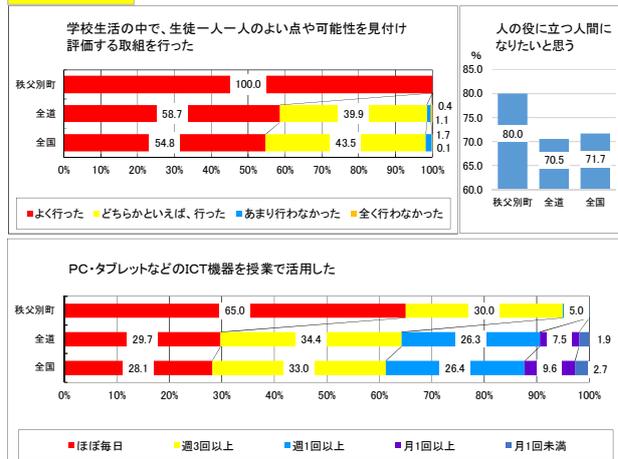


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレット型PCの活用促進を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を授業の中でほぼ毎日活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレット型PCの活用促進を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を授業の中でほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【秩父別町の学力向上策】

- ◎ 長期休業を活用した「望ましい習慣」の定着と郷土愛を育む事業の実施
- ◎ 学習支援員の配置継続による個に応じた指導の充実
- ◎ 無線LANの整備によるタブレット型PCの活用促進

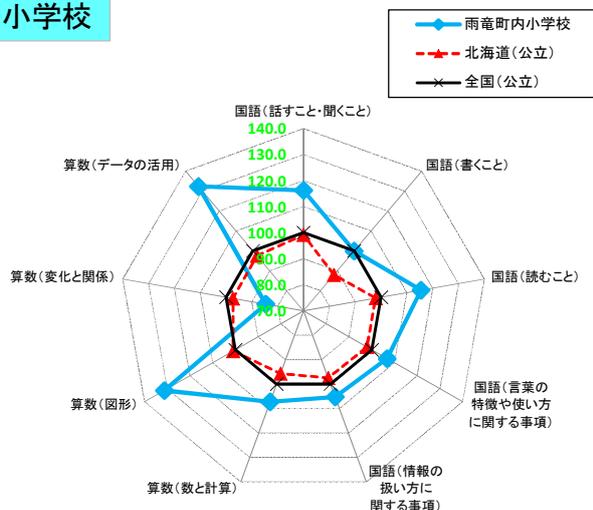
■雨竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

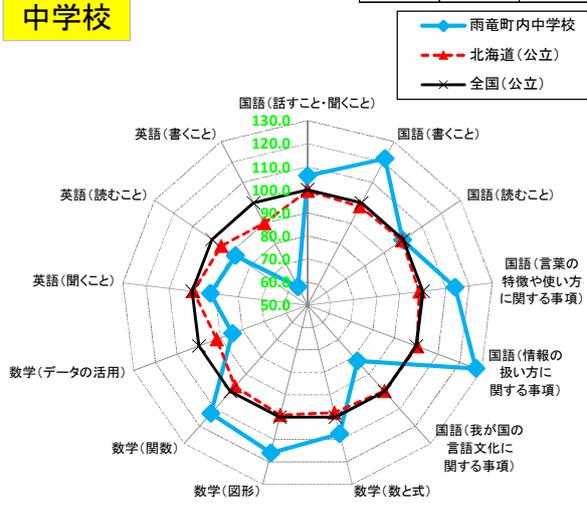
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	74	75
算数・数学	68	54
英語	-	39

小学校

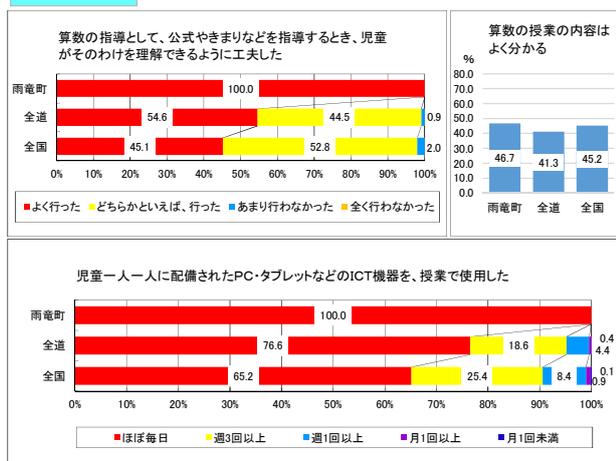


中学校

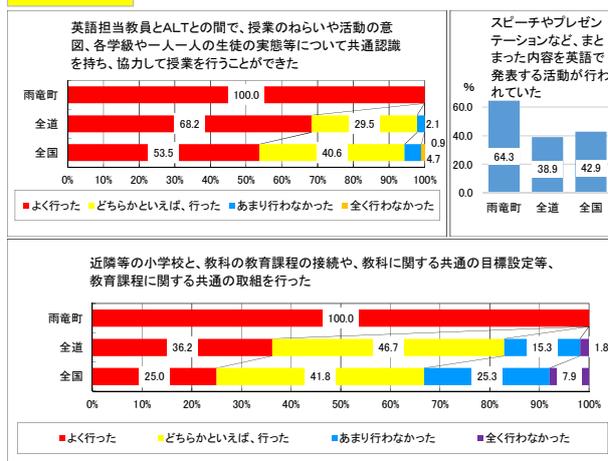


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、ICT機器の活用による指導方法の工夫改善と効果的な学習活動を推進したことにより、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で使用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業をよく行ったことにより、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、小中合同教員研修を通じた授業改善の取組と小中相互乗り入れ授業を行ったことにより、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をよく行った学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【雨竜町の学力向上策】

- ◎ 小中合同教員研修を通じた授業改善の取組と小中相互乗り入れ授業の実施
- ◎ ICT機器の活用による指導方法の工夫改善と効果的な学習活動の推進
- ◎ 小・中学校で連動した家庭学習強調週間の設定による家庭学習の時間と質の向上

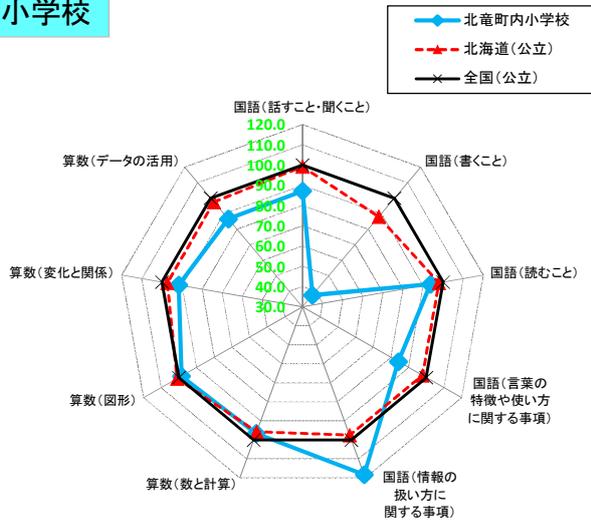
■北竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

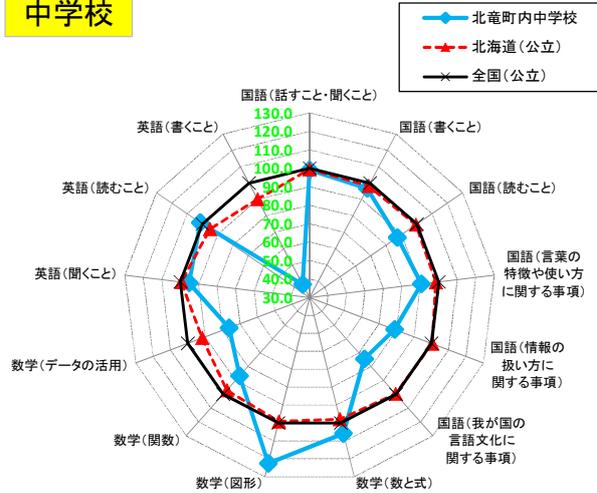
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	62
算数・数学	59	50
英語	-	41

小学校

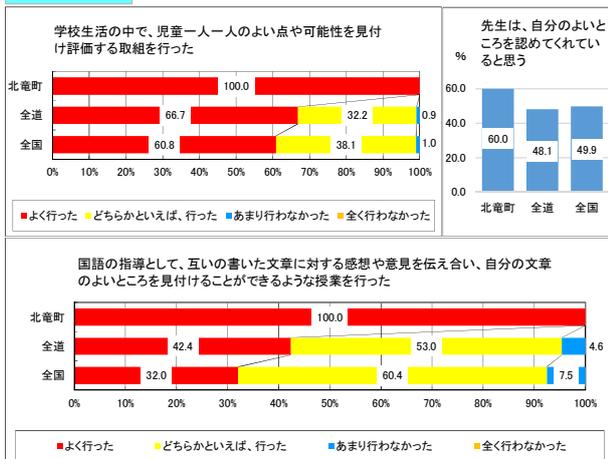


中学校

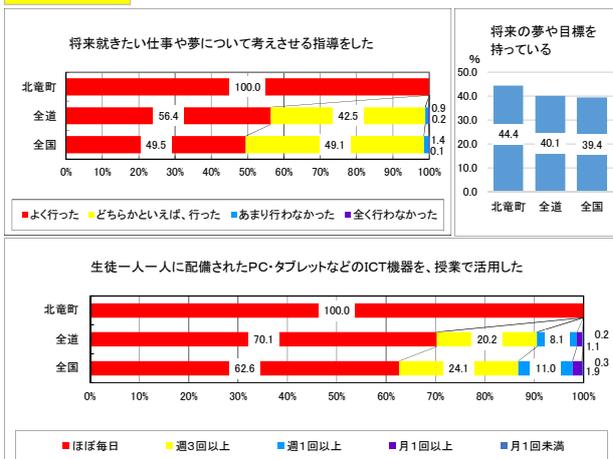


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、自分のよいところを認めてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
 町全体で、全国学力・学習状況調査の結果を活用し、学力や学習状況の評価・分析をもとにした授業改善を進めたことにより、国語の指導として、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けけることができるような授業を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
 町全体で、ICT化に向けての無線LAN環境整備を行うなど、1人1台端末の活用に向けた取組を推進したことにより、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北竜町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を活用し、学力や学習状況の評価・分析を基にした授業改善の推進
- ◎ 町教育振興会での小中連携した研究活動など、教職員の実践指導力を高める取組の充実
- ◎ ICT化に向けた無線LAN環境の整備

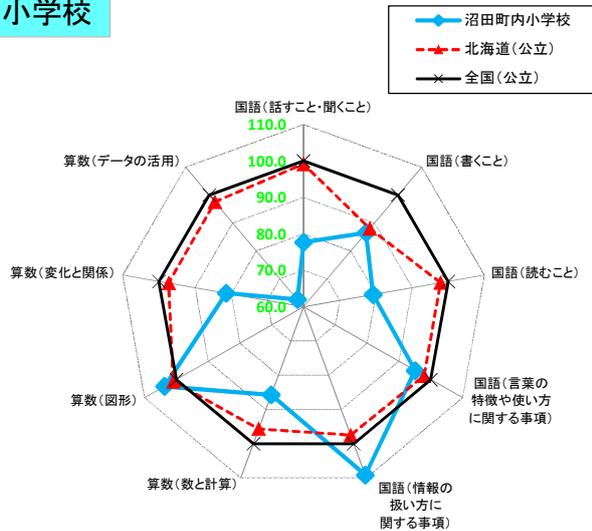
■沼田町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

【教科全体の状況】

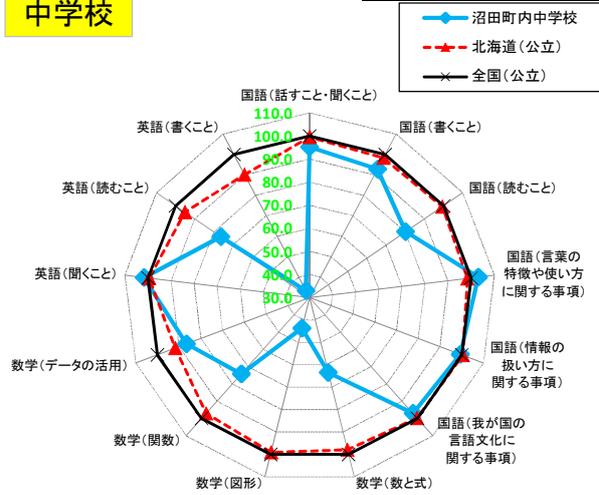
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	66
算数・数学	52	35
英語	-	37

小学校

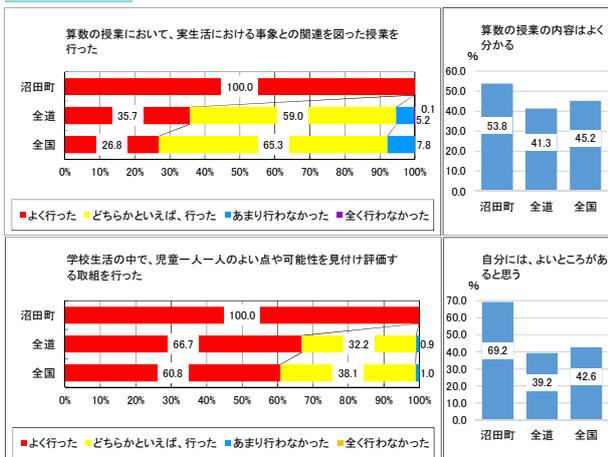


中学校

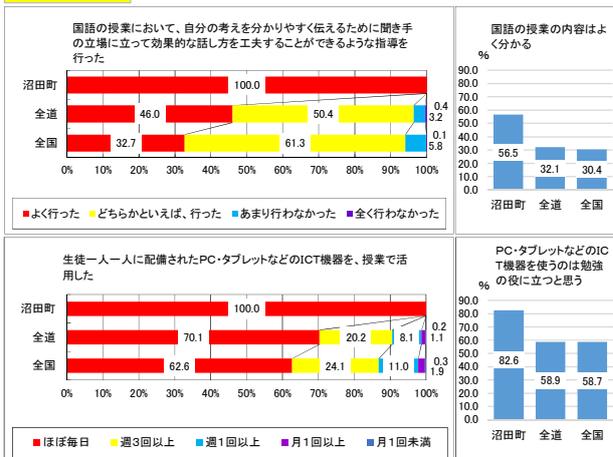


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をよく行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【沼田町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を見通した教育課程の編成と体制及び教育環境の整備等による小中一貫教育の推進
- ◎ 長期休業中及び平日の「学習サポート事業」の実施
- ◎ 望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施